

【概要】

1. 新規採用薬 : 該当なし
外来限定採用 : 該当なし
2. 供給
3. 採用変更
4. 添付文書改訂
5. 添付資料

1. 新規採用

①院内採用 該当なし

②外来患者限定採用 該当なし

2. 供給

●出荷調整

- ・フスコデ配合錠 : 供給状況安定せず、在庫消尽次第出荷停止
- ・ポリフル錠 500 mg : 製造販売の影響により、在庫消尽次第出荷停止
- ・沈降破傷風トキソイド「生研」 : 適格性の検証結果疑義により、製品出荷一時停止
- ・カンレノ酸カリウム静注用 100 mg「サワイ」 : 製造設備不具合により在庫消尽次第第一時供給停止(在庫消尽時期 2025年7月末予定)

●販売中止

- ・アミカシン硫酸塩注射液 200 mg「F」: 2027年2月頃在庫消尽目安、経過措置 2028年3月31日予定

3. 採用変更 ※①-③: 在庫消尽次第切り替え ④: 在庫消尽次第終了

①内服

- ・レホチロキシンNa錠 25 mg「サンド」(10.4 円/錠) → チラーチンS錠 25 mg(10.4 円/錠): 販売中止に伴う変更
 - ・レホチロキシンNa錠 50 mg「サンド」(10.4 円/錠) → チラーチンS錠 50 mg(10.4 円/錠): 販売中止に伴う変更
- [後発品→後発品の変更]
- ・アリピプラゾール錠 3mg「アメル」 → 「サワイ」
 - ・プラバスタチンNa錠 5 mg「NIG」 → 「トーワ」
 - ・バイアスピリン錠 100 mg → アスピリン腸溶錠「JG」
 - ・パロキセチン錠 10mg「日新」 → 「明治」
 - ・ガランタミンOD錠 8 mg「アメル」 → 「トーワ」

②注射

- ・ケタラール静注 50 mg(680 円/菅) → ケタラール静注 200 mg(1618 円/菅)
- ・ゾレドロン酸点滴静注 4mg/100mL バッグ「NK」(6590 円/袋)
→ ゾレドロン酸点滴静注 4mg/5mL「NK」(5813 円/瓶)
※ゾレドロン酸点滴静注 4mg/100mL バッグでは、濃度調製のために全量を 100mL にする必要がありましたが、バイアル製剤では濃度調製不要となります。
- ・カシワドール静注(78 円/20ml/菅) → ザルチロン注(61 円/10ml/菅) ※外来患者限定
- ・沈降破傷風トキソイド「生研」 → 破トキ「ビケンF」

[後発品→後発品の変更]

- ・生食液 NS20ml → 生食注 20ml「Hp」
- ・ニコランジル点滴静注 48 mg「日医工」 → 「サワイ」 : 2025/9 経過措置に伴う変更 ※変更済
- ・ドキソルビシン塩酸塩注射液 10mg「サンド」(650 円/瓶) → 「NK」(629 円/瓶)
- ・ドキソルビシン塩酸塩注射液 50mg「サンド」(2697 円/瓶) → 「NK」(2817 円/瓶)
- ・セフェピム塩酸塩静注 1g「サンド」 → 「CMX」
- ・アミカシン硫酸塩注射液 200 mg「F」(610 円/管) → 「SW」(357 円/管) : 販売終了に伴う採用変更

③外用 該当なし

④院内採用終了（在庫消尽次第採用終了）

- ・シベレスタット Na 点滴静注用 100mg「ニプロ」(1320 円/瓶): 不動在庫・期限切れのため終了

4. 添付文書改訂

カリメート散,ドライシロップ 92.59%,経口液 20%

● 11.2 その他の副作用 追加

頻度不明 : 下痢

メルカゾール錠 2.5mg,5mg

● 11.1 重大な副作用

11.1.10 急性膵炎(頻度不明)

上腹部痛、背部痛、発熱、嘔吐等の症状、膵酵素異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行う

ポリスチレンスルホン酸 Ca 顆粒 89.29%分包 5.6g,経口ゼリー20%分包 25g「三和」

● 11.2 その他の副作用 追加

頻度不明 : 下痢

ダラキユーロ配合皮下注

● 7.用法及び用量に関する注意 追記

<多発性骨髄腫>

・7.6 未治療の多発性骨髄腫患者に対して、ボルテゾミブ、レナリドミド及びデキサメタゾンと併用する場合、骨髄抑制、血小板減少又は好中球減少が発現した場合には、下表を参照し本剤の休薬等、適切な処置を行うこと。

・ダラキユーロの休薬基準

・減量する場合のレナリドミドの投与量

・レナリドミドの休薬・減量基準

● 11.副作用 発現率変更・追記

アブラキサン点滴静注用 100mg

● 9.4 生殖能を有する者 変更

9.4.1 妊娠する可能性のある女性には、本剤投与中及び最終投与後 6 カ月間において避妊する必要性及び適切な避妊法について説明すること。(9.5、15.2 参照)

● 9.4 生殖能を有する者 削除

9.4.2 <削除:パートナーが妊娠する可能性のある>男性には、本剤投与中及び最終投与後 3 カ月間においてバリア法(コンドーム)を用いて避妊する必要性について説明すること。<削除:哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験及びマウス骨髄細胞を用いた小核試験において、遺伝毒性が報告されている。>(15.2 参照)

オプジーボ点滴静注 20mg,100mg,120mg,240mg

● 4. 効能又は効果 追加

切除不能な肝細胞癌

リツキシマブ BS 点滴静注 100mg,500mg「ファイザー」

● 4. 効能又は効果

難治性のネフローゼ症候群(頻回再発型、ステロイド依存性あるいはステロイド抵抗性を示す場合)

5. 添付資料

院内採用薬の供給停止・出荷調整薬について(2025年 7月 23日更新)

医療安全情報 No.224 「退院時の処方漏れによる 内服の中止」

DSU No.337